

震災の体験を学び 学校間の絆を深める 熊本西高の生徒が白石工業高を訪問

12月19日、東日本大震災の被災地を視察するため熊本県立熊本西高校の生徒や教師7人が、白石工業高校を訪れました。熊本西高は、震災の体験を学び、学校防災や震災対応に取り入れるとともに、生徒に出来る支援策を模索しながら、学校間の絆を深めることを目的に訪問。白石市と名取市閑上で被災した生徒2人から、震災当時や復興の状況の説明を受けました。熊本西高の松本肇さんは、「熊本に戻ったら、『被災地の今』がどのような状況なのかを伝え、『当たり前』のありがたさを知ってもらいたい」と真剣な表情で話していました。



▲被災・復興状況を視察後、交流を深める生徒たち

受験合格への願いを込めて 白石高校PTA主催 「合格祈願・力餅」

12月20日、受験生の合格を祈願した「力餅」の配布などが白石高校で行われました。白石高校PTA(桂山信幸会長)が主催したこの催しは、これからの受験に「餅」のように粘り強く取り組み、合格をつかみ取ってほしいという思いを込めて実施されました。生徒たちは、受験合格を願い元気に餅つき。PTAが「力餅」や「まき餅」を準備して全生徒に配ったほか、生徒がついた餅は、雑煮にしてその場で振る舞われました。

おいしい餅を食べて、おなかも心も満たされた受験生。合格目指して頑張ってください！



▲受験合格の願いを込めて餅つきをする生徒たち

仲良く 楽しく遊んでね 市内8カ所の保育園にクリスマスプレゼント

12月24日、NECインフロンティア東北株式会社の岡本博人取締役工場長などが、市内8カ所の保育園にブロックやおもちゃなどのクリスマスプレゼントを届けてほしいと白石はるかぜ保育園を訪れました。贈呈式では、岡本工場長から園児の代表に、「仲良く、楽しく遊んでください」とおもちゃが手渡され、4・5歳児35人が感謝の気持ちを込めて合唱を披露しました。同社は平成19年から、従業員やその家族が集めたアルミ缶の売買取益を活用し、市内の保育園にクリスマスプレゼントを贈り続けています。



▲岡本工場長(左)から笑顔でおもちゃを受け取る園児たち

「火の用心！」と叫ぶ声は 冬の風物詩 東益岡地区「防犯夜警」出発式

12月25日、東益岡地区「防犯夜警出発式」が東益岡会館で行われました。出発式には、東益岡青年会(大橋利史会長)や関係者など約20人が参加。大沼俊一副会長が、「伝統ある『防犯夜警』、今年もはりきって出発しましょう」とあいさつし、青年会の皆さんが防犯・防災のために地区を巡回しました。

昭和17年度から毎年行われているこの行事は本年度72回目。拍子木や鐘を鳴らし「火の用心！」と叫ぶ声はこの地区の風物詩。本年も12月25日から1月14日までの3週間、毎日欠かさずに続けられました。



▲防犯・防災のため、地区を巡回する東益岡青年会の皆さん

冬休みの楽しい思い出に

斎川公民館で「親子クッキング&クリスマス会」

12月22日、「親子クッキング&クリスマス会」が斎川公民館で開催され、斎川小学校の児童や保護者約50人が参加しました。この日は、ヘルスマイト白石の皆さんを講師に、1日の摂取目標とされる350gの野菜の量や、野菜摂取が生活習慣病の予防につながることなど、野菜摂取の大切さを学んだ後、料理手順の説明を受けながら親子で「デコレーションすし」などに挑戦。親子でふれあひながら作り、味わいました。また、子どもたちには、サンタさんからのプレゼントも手渡されるなど、大人も子どもも一緒になって楽しい時間を過ごしていました。



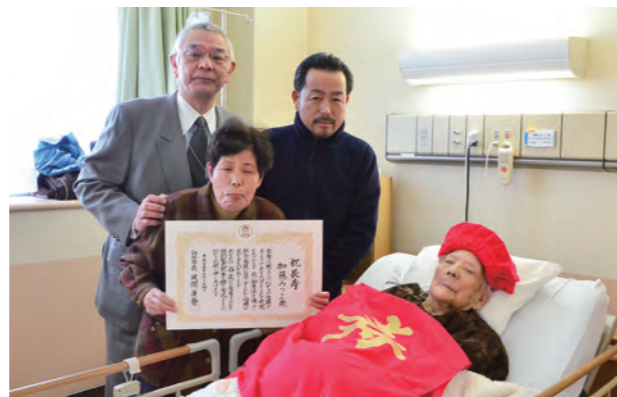
▲料理を通して、楽しみながら野菜摂取の大切さを実感！

100歳おめでとうございます

加藤みつよさんに松竹梅敬老祝金を贈呈

12月24日、満100歳を迎えた加藤みつよさんを風間市長が訪ね、祝詞を松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。みつよさんは上郡山生まれで、夫を戦争で亡くしてからは、看護師をしながら女手ひとつでお子さん1人を育てられ、現在は孫が2人、ひ孫が2人います。

歌謡曲を聴くのが好きで、島倉千代子さんの「東京だよおっかさん」や二葉百合子さんの「崖の母」がお気に入りというみつよさん。長生きの秘訣は、「好き嫌いをなく食べ、腹八分を守ってきたことではないでしょうか」と話してくれました。



▲みんなで長寿を祝いました

ソーレ ヨイショ

第一児童館でお楽しみ餅つき会

12月25日、放課後児童クラブを利用する約80人が参加した「お楽しみ餅つき会」が、第一児童館で開催されました。「昔ながらの餅つきを体験するとともに、白石地方に伝わる雑煮を味わってほしい」と始まった餅つき会も、今年で5年目。子どもたちは、親の会やヘルスマイト白石のボランティアの皆さんに教えられながら、「ヨイショ」との掛け声に合わせて、代わる代わる昔ながらの木臼ときねを使い、餅つきに挑戦。つきたてのもちはずすぐに雑煮ときな粉餅にして振る舞われ、子どもたちは一足早い正月気分を味わいました。



▲大勢の仲間が見守る中、餅つきに挑戦する児童たち

100歳おめでとうございます

日下ますよさんに松竹梅敬老祝金を贈呈

1月20日、満100歳を迎えた日下ますよさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。ますよさんは福岡深谷生まれで、若いころは東京ではた織りの仕事に従事。結婚後は北海道で3年ほど暮らし、終戦前に実家に戻り、家業の農業に従事されたそうです。平成25年9月から介護老人福祉施設あさくらホームに入所されているますよさん。施設では、折り紙で花を作るなどの作業療法に楽しみながら、ご自分の主張もしっかりと伝えられるそうです。この日は、みんなですよさんの長寿を祝いました。



▲風間市長と記念撮影をする日下ますよさん(右)